



**作品名 地域に開く釣屋の住まい**

舞阪町は静岡県浜松市の西南に位置し江戸時代には東海道 30 番目の宿場町であった。西へ向かうにはここから船を使い関所のある新居宿に渡る。船着き場には雁木が整備され、ここに立つ常夜灯を目印に船が着く。舞阪の宿には、本陣 2 軒・脇本陣 1 軒・旅籠屋 28 軒があり、この時代から漁業や渡船業で生計を立てた街である。浜名湖に面しているこの地域は、うなぎや牡蠣、すっぽんなどの養殖業が全国的にも有名で、時期になれば潮干狩りもできる。また、遠州灘沖ではフグやシラス魚が盛んにおこなわれるなど豊かな漁場がある自慢の地域である。そこで私たちは、漁師の家を拠点として地域の人との触れ合いの場ができないかと考え「地域に開く釣屋の住まい」に取り組むことにした。

静岡県立浜松大平台高等学校 チーム名 チームおひまる  
監督 太田 武先生 選手 5 名



**作品名 駄菓子屋×“今”**

地域に開きながら交流を促し、子供の居場所となる建築を提案する。近年、新型コロナウイルスなどの影響により、テレワークやリモートワークなど働き方が多様化した。それにより、対面で人と話すことが減り、生活の大部分を家庭内で完結させてしまう大人が増えた。また、かつては子どもが集まる場所として駄菓子屋が挙げられたが、時代が変化するにつれ、そのような「子供の居場所」という場は減少した。さらに、現代では共働きの家庭が増え、子どもが 1 人で過ごすことが多くなった。これらのことから、地域に開きながら交流を促し、子供の居場所となる建築を考えた。大人と子供が共通の拠点を持つことで、子どもの成長を見守りながら、交流が盛んに行われるように駄菓子屋とコワーキングスペースを掛け合わせた。かつての駄菓子屋が持つ機能を活かしつつ、時代と地域のニーズにあった建築を作ることで交流の輪が再び形成され、地域社会の絆が強化されていくことを期待する。

静岡県立浜松工業高等学校 チーム名 浜松工業高等学校建築研究部  
監督 鈴木 将也先生 選手 9 名

**令和 6 年度 最優秀作品の紹介**

**祭りとはなレ**  
生活と地域を繋ぐ家

祭りは、地域の顔であり、人々を結びつける存在を持っている。この家は、日常の暮らしを取り込み、地域と暮らしが交差する「はなレ」の空間を提案する。段々高くなった敷地構成により、住まいは町に開かれ、家業と地域が自然に交わる場となる。テラスや階段は、地域の人が集まり、交流を促す空間として機能し、祭りの準備やイベントが日常の中で行われる。

この家は、「はなレ」を通じて祭りと家業の生活が交差し、地域の伝統と未来を繋げる場を創り出す。

01 断面計画

02 立面計画

03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

**作品名 祭りとはなレ・生活と地域を繋ぐ家**    **静岡県立天竜高等学校 建築系列有志**